ふかまちのまど

第四十五号
九八(平成十)年一月一日 発行

ご挨拶

町内会連合会 会長 幸谷満夫

新年あけまして
おめでとうございます

昨年は大変お世話様になりました。厚くお礼申しあげます。

一年を振り返って見ますと早いものです。四月より町内会連合会のお世話をさせていただいて居りますが、始めての事とて充分なお世話が出来なかった事をお許し下さい。

でも、皆様方の暖かい御理解と御協力により、種々の行事もスムーズに出来ました事大変喜んで居る次第でございます。

今年も、どうか相変らず御指導と御協力の程お願い申し上げて、新年の御挨拶と致します。▲▲

深町の歴史余話(三)

苗字について (2)

高崎壽郎

江戸時代に「苗字帯刀御免」だった人は、公家、武士、僧侶や神主、医者、庄屋、学者それに特別社会に功績のあった者などである。

その数はおよそ三百万人。それは、江戸時代の我が国の人口約三千万人の一割にもみたなかったといわれる。

そのような時代においても、百姓町人の中には潜在的に苗字を名乗っていた者が相当あったらしい。というのは、屋号は自由だったので、森田屋、川口屋、高島屋というように、苗字の下に「屋」を付け、うまくカムフラージュしていたようだ。

庶民の細やかな抵抗という所か。

深村の場合、江戸時代の古文書に登場する庄屋には苗字はない。又、みんなが苗字を許された明治三・四(一八七〇・一八七一)年の古文書にも苗字はなく名前だけである。

注目は棟札(棟上げの時、工事の由緒、年月日、建築者、工匠などを記して棟木に打ちつける札)である。沖成瀬の観音堂にある棟札の大工の棟梁に苗字が書いてある。藤原姓。棟梁にはそれだけの格式があったのだろうか。

さて、余談だが苗字の数について調べてみたい。

同じ読み方でも漢字が違う場合(例えば山元と山本)反対に同じ漢字でも読み方が違う場合(例えば山崎を「ヤマサキ」「ヤマザキ」)などすべきを一姓として計算すると、我が国の苗字はおよそ十四万もの数になるという。おそらく世界一である。

特に多い苗字は、佐藤、鈴木、高橋、伊藤、渡辺等である。珍姓としては、四月一日を(わたぬき)一八女を(さかり)一合戦を、(いちまかせ)一事を(いちご)言語同断を(てくら)など多くあり、一を(イチ、カズ、ハジメ、イチモンジ、ヒトモンジ、二ノマエ)と多様に読ませる苗字もある。

深町では、およそ一七〇の苗字を数える。これは、世帯数の約半数である。

人口十二億人といわれる世界一人口の多い中国にはどのくらいの苗字があるのだろう。

それが以外や以外、少ないのである。その数は約五百といわれ、同姓が何十万人何百万人もいることになる。

お隣の韓国はもっと少なく、約二五〇という。金、李、朴、崔の順になっており、その一族が多くいることがわかる。どの家もルールがはっきりしており、大昔から苗字を名乗っていたようだ。

もし、我が国が中国や韓国のように、昔から苗字を名乗っていたら、現在とは比較にならない程その数は少ないと思う。深でも然り。

我が国の場合、庶民には明治になるまで、なぜ苗字を名乗らせなかったのだろうか。▲▲

地域と消防団

小川敦道

平成一〇年三月七日で自治体消防発足五〇年になります。

我々の身の回りには、日頃から災害への備えが欠かせません。その中核を担うのが、日本津々浦々に根を張る消防団。「自分たちの地域は自分たちで守る」を基本としたボランティア組織です。サラリーマンが七五%を超え、我が仕事がありながら、緊急災害はもちろん、火災訓練、水防訓練、救急訓練に積極的に取り組んでいます。

阪神・淡路大震災において、初期消化、救助、避難誘導に大きく役立った例が多く報告されています。消防団が地域と一体となった体制を普段から作り上げておくことが、災害時においていかに重要であるかが改めて認識されたところです。

過去深町でも、火災・台風・水害等に消防団員がいち早くかけつけて、被害の軽減を図ったことは言うまでもありません。町内会、女性会、PTA、青年会等様々なグループとの連携が図られる必要があります。

「寒に生木なし」 春先には空気が乾燥し、火災が発生しやすい気象状況となります。

次の事項に注意し貴重な財産を皆で守りましょう。

火の用心七つのポイント

一、家のまわりに燃えやすいものを置かない。
二、寝たばこや、たばこの投げ捨てをしない。
三、天ぷらを揚げるときは、その場を離れない。
四、風の強いときは、たき火をしない。
五、子どもには、マッチやライターで遊ばせない。
六、電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない。
七、ストーブには、燃えやすいものを近づけない。

地域の実情に通じ、郷土愛と機動性をもつ消防団活動が、今後益々発展することを願います。

♥春夏秋冬♥

梶谷マサヨ

長かりしこの一年をかえり見る
夢まぼろしの思いこそすれ

冬の日は室にこもりて一時を
万葉の歌解ききかされし

亡き夫の月命日に参るたび
山坂超えるも楽しみのうち

新年に七福神をお迎えし
さびしさもなく八人家族なり

奉仕活動

昨年、十二月下旬深町の県道で、袋を片手にゴミ拾いする高校生(如水館)グループに出会いました。

いつかは、誰かがやらねばならぬ「嫌な作業」を、黙々とやる若者たちの姿は、私たち道往く者にすがすがしく映りました。

尚、深町女性会も、年二回奉仕活動されています。これも明るい話題の一つです。

船本輝明

一月町内各種団体行事予定

◆小学校(幼)
▼始業式＝八日 ▼貯金日＝九日 ▼集金日＝一二日
▼給食始＝一二日 ▼身体測定(低)弁当始(幼)一三日
▼身体測定(高)＝一四日 ▼テレビ収録＝一七日 ▼誕生会(幼)一七日 ▼参観日＝二九日 ▼竹馬大会＝三一日

◆尚寿会
▼新年会(甲山町アクアハウス)＝二二日

◆女性会
▼新年会＝一七日 親睦会(上)＝一八 (中)＝二〇日 (下)＝八日

深小でテレビ収録

一月一七日午後「おもしろ学園ハッピークイズ」(テレビ新広島)の取材が深小であります。竹馬を使ったゲームについての取材です。子どもたちは、冬休み中に竹馬作りに、練習にとはりきっています。

当日は、如水館高校にも取材があるそうです。ぜひおいでいただき、取材を一緒に楽しみませんか。(放映は二月十五日(日)の九時からです。)

深小学校

展望席

八〇年代、「もはや日本は米国に学ぶべき何ものもない」「日本の政治は三流だが経済は一流」と豪語した日本経済も、今は世界の四流国になり下がった。これは何かのはずみでこうなったのではなく、必然的因子があったと思える。▼たいした苦労もせず濡手に泡の大金を手にできたのも、国の無策に便乗したことにある。「柳の下にどじょが二匹」であった。破綻は三匹を追う愚を犯し、犯させた結果である。中には二匹を追うことを止めた人や法人もいた。このあたりの『読み』に人の素顔がのぞいて興味深い。▼——「近頃、いい顔をしているな、と思う人に出合うことが少なくなった。いい顔、そう、知的に、志高く生きているな、と思わせる顔である。その一方で、人はどう生きるべきか、というごく根源的な議論を聞くことも、このごろめっきり少なくなった。その代わり、どう儲けるか、どう出世するか、どう不都合なことをごまかすか。この国はそういうことばかり考えている人たちであふれているように見える」——月刊選択から。